

# 家畜衛生広報

ながの



長野家畜保健衛生所

北信家畜畜産物衛生指導協会

〒380-0923 長野市安茂里米村1993

TEL 026-226-0923 Fax 026-227-2665

H21.(2009)5月

さー牧場へ！！ でも その前に。 ～牛の準備は？～

牧場での事故防止 & より良い発育のために「<sup>じゅんち</sup>馴致」をお願いします。

新緑が眩しい今日この頃、もうすぐ牧場の季節です。飼養管理の省力化、低コスト化、足腰が丈夫でルーメンが発達した生産性の高い牛の育成といった「放牧」のメリットについては皆さんよくご存知のとおりです。また、飼料自給率の向上につながることや、飼料高騰による影響を軽減するためにも積極的に牛を放牧に出しましょう。しかし、放牧中に事故があってはこれらのメリットは無くなってしまいます。放牧のメリットを目一杯活かすため「放牧馴致」に取り組みましょう。

## そうはいつでも牛にとっては最初は大ストレス。馴致のポイント

牧場に行けば「おいしい空気を吸い、草食べ放題！」のはずですが、慣れるまでは今までとは全く違った環境に放り込まれることとなります。徐々に馴らしていくことでストレスを軽減することが必要です。

### ① エサに馴らす

ルーメンの微生物が青草に適したものに变化するのに**1ヵ月かかる**といわれています。**1ヵ月かけて徐々に青草に馴らす**ようにしましょう。

### ② 気象・環境に馴らす

山の気候は1日の気温の差も大きく、これだけでも呼吸器病などの発症につながります。野外環境に馴らすため、**1ヵ月くらい前から徐々に外で飼育し**(昼間のみ→昼夜)馴らしていきましょう。

野山を歩き回る上で**削蹄**も重要です。**2週間前にはすませておいてください。**

### ③ 群に馴らす

牧場に行って新たな群の中に入ることも大きなストレス。可能であれば群飼養に馴らすよう、複数の牛で馴致してあげましょう。

### ④ ワクチン

ワクチン接種で病気のリスクを下げる事が出来ます。牛アカバネ病、IBR、クロストリジウムなど様々なワクチンがありますが、月齢、牧場、疾病の発生状況などに応じ獣医さんと相談した上で選択してください。

ワクチン接種してから免疫を獲得するまで一定の時間がかかりますので、放牧2週間前には接種が終わるようにしてください。